

① 日本国特許庁 (JP)

② 特許出願公開

③ 公開特許公報 (A)

昭59-54809

④ Int. Cl.⁴
F 16 B 39/286

識別記号

庁内整理番号
7526-3 J

⑤ 公開 昭和59年(1984) 3月29日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑥ 緩み止めナット

⑦ 特 願 昭57-163223

⑧ 出 願 昭57(1982) 9月21日

⑨ 発 明 者 満尾浩治
東京都杉並区永福3丁目37番12号

⑩ 発 明 者 大坪則雄

八王子市堀之内1715-43南陽台54-4

⑪ 出 願 人 株式会社満尾総合研究所
東京都杉並区永福3丁目37番12号

明 細 書

1. 発明の名称

緩み止めナット

2. 特許請求の範囲

底面近くに螺孔と交差する切込溝が設けられており、該切込溝によつて上部本体部とこれより小さい下部変形可能部が構成されたナットであつて、その底面に勾配が設けられているか、底面に凸部が設けられているか、或いは底面に勾配が設けられているか凸部が設けられていて、上記ナットをボルトに螺嵌して締めつけると、上記下部変形可能部が変形して、上記切込溝の巾が狭くなるように構成されていることを特徴とする、緩み止めナット。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、底面近くに螺孔と交差する切込溝が設けられており、該切込溝によつて上部本体部とこれより小さい下部変形可能部が構成されたナットであつて、その底面に勾配が設けられているか、底面に凸部が設けられているか、

或いは底面に勾配が設けられているか凸部が設けられていて、上記ナットをボルトに螺嵌して締めつけると、上記下部変形可能部が変形して、上記切込溝の巾が狭くなるように構成されていることを特徴とする、緩み止めナットに関する。

添付図面第1図は、底面1近くに螺孔2と交差する切込溝3が設けられており、該切込溝3によつて上部本体部4とこれより小さい下部変形可能部5が構成され、かつ底面1に勾配が設けられた緩み止めナット1例を示す。第2図は、底面1'近くに螺孔2'と交差する切込溝3'が設けられており、該切込溝3'によつて上部本体部4'とこれより小さい下部変形可能部5'が構成され、かつ底面に凸部6が設けられた緩み止めナット1例を示す。また第3図は、底面1''近くに螺孔2''と交差する切込溝3''が設けられており、該切込溝3''によつて上部本体部4''とこれより小さい下部変形可能部5''が構成されたナットと、勾配が設けられた底面7とをセットにした緩み止めナット1例を示す。尚上記実施例において第2

図示の締め止めナットに設けた凸部6は、締結時ナットと一体的に成形してもよく、図示のように底面に丸を設け凸部6を挿入してもよい。また第3図示の締め止めナットにおける座金の勾配は図示のように上面に設けてもよく底面に設けてもよい。また勾配を設けることなく上面または底面に凸部を設けてもよい。

第4図はボルトAに従来のナットBを螺合し、更にこの発明の締め止めナットCを螺合して二重ナットを構成する所を示し、第5図はボルトAに締め止めナットCのみを螺合した所を示す。実線7で示される2枚の板材D Eを介在させ、締め止めナットCを締めつけると、下部変形可能部が変形し、切込溝はその外側のオカリ深く入り、2枚の板材D Eは強固に結合される。尚第4図及び第5図の締め止めナットCには、第1図示の締め止めナットを図示した。また8及び9はボルト孔である。

この発明は詳細のように構成され、締め止めナットを螺合した後は振動や衝撃等により締め止めナットが緩み難く、堅固作業も簡単である等の効果を有し、極めて実益的である。尚図面に示した勾配は判りやすいように大きく取つてあるが、現実的には締め止めナットを螺合した時その底面が板材や座金等に密着する範囲内の勾配が望ましい。

4. 図面の簡単な説明

添付図面はこの発明の実施例を示すものである。第1図〜第5図は締め止めナット3例の縦断面図、第4図及び第5図は締め止めナットをボルトに螺合した所2例を示す側断面図である。

1, 1' 1" --- 底面
2, 2' 2" --- 螺孔
3, 3' 3" --- 切込溝
4, 4' 4" --- 上部本体部
5, 5' 5" --- 下部変形可能部
6 --- 凸部

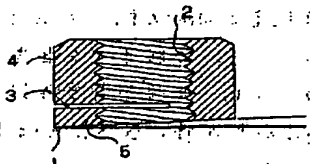
7 --- 座金
8 --- ボルト孔
9 --- ボルト孔
A --- ボルト
B --- ナット
C --- 締め止めナット

特許出願人

株式会社 満足総合研究所
代表取締役 満足浩三



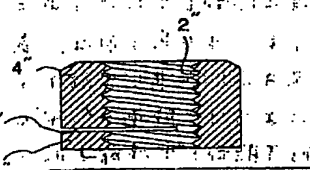
第1図



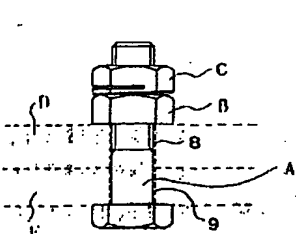
第2図



第3図



第4図



第5図

